ぼくの「思いやり」

大崎市立古川西小中学校
五年
村上実優

「思いやりのある行動をしましょう」「思いやりのある人だね」「思いやり」って何だろう。辞典で調べてみると、その人の気持ちになって、親切に考えてやること。同情。と書いています。

「思いやり」の言葉で思ったことがあります。大崎市は、毎年春と秋、統一清掃が行われます。ぼくの住んでいる地区は、道路のごみ拾いをします。この清掃にぼくは、三才から休むことなく参加しています。小さかった時は、たくさんごみを拾うと、地区のおじさん、おばさん達にとてもほめられました。それがうれしくて毎年参加していたかもしれません。でも、今年の春、いつものように参加をしましたが、終わった後「あれ」と思った自分がいました。どうして毎回道路きれいにしても、また、ごみがあるのでしょうか。

ペットボトル、カン、たばこの吸いがら、弁

当の空箱などいろいろな物が捨てられています。

どうして、道路にごみは無くならないのでしょうか。どういう人がすてているのでしょうか。五つ考えてみました。

①だれも見ていないから、捨ててもだれか拾うと思う人

②いつも捨てていて、悪い事だと思わない人

③車の中にごみを置きたくない人

④みんなやってるし自分もやってもいいと思う人

⑤捨ててもだれか拾うと思う人

まとめてみると、自分中心に考えて、捨てた後どうなっているのか考えることができない人なのかもしれません。

「ポイ捨て禁止」「ごみは捨てないで」という看板を見ることがあります。住んでいる所、それ以外の所、区別をつけないでごみのない道路にするということを一人一人心がけ

守っていくことが「思いやり」だとぼくは思います。

そして、ぼくが出来る「思いやり」は、発言、行動する前に少し立ち止まって考えてからしようと思いました。小さな心がけですが、積み重ねていけば、大きな「思いやり」になるはずです。